

## 【ナレーション部門】

課題①『大型捕鯨船が博多にやってきた!』

ゆっくりと港に入ってくる

大型の捕鯨船「関鯨丸」

かんげいまる

(0秒～6秒)

全長113メートル、幅21メートル。

(6秒～11秒)

この船は捕獲したクジラの

解体から加工、冷凍保存まで

一連の作業ができる

世界で唯一の船です。

(11秒～22秒)

江戸時代に むなかたし 宗像市の沖合で捕鯨が

行われていたとされ、

クジラは福岡の食文化に

古くから根付く食材の1つです。

(22秒～34秒)

今では鶏肉を使う

郷土料理「筑前煮」ちくぜんにも

昭和30年代ごろは安く手に入る

クジラで作っていたそうです。

(34秒～45秒)

消費者の多くはクジラ料理に

なじみが深い中高年です。

(45秒～50秒)

若い世代にも

クジラのおいしさを

知ってほしいと

新メニューの開発が進んでいます。

(50秒～58秒)

【ナレーション部門】

課題②『すしの都・北九州市で職人が競う』

身近な すしとして

幅広い世代に親しまれる回転ずし。

（0秒～6秒）

その職人が技術を競う大会が開かれました。

（6秒～10秒）

舞台となったのは

「すしの都」として地元のすし文化の

発信に力を入れている北九州市です。

（10秒～18秒）

大会では制限時間内に すしを握る速さ

そして出来映えなどを競います。

（18秒～25秒）

中でも重さの評価基準は

マグロが1貫68グラム、

サーモンが1貫66グラムと細かく設定。

(25秒～36秒)

腕自慢の職人たちが熱戦を繰り広げました。

(36秒～41秒)

参加者の中には

インドネシアや中国出身の人の姿も。

(41秒～47秒)

回転ずし業界が海外出身の職人に

支えられているのが分かります。

(47秒～53秒)

一流の職人を目指す思いは

万国共通なのかもしれません。

(53秒～1分0秒)

## 【ナレーション部門】

課題③『ワールドカップの裏で～水道局の熱戦～』

世界中が熱狂した

サッカーワールドカップ。

（0秒～4秒）

パブリックビューイングの

会場では日本代表の活躍に

ファンが釘付けです。

（4秒～11秒）

そんな試合の裏では もう一つの戦いが

繰り広げられていました。

（11秒～17秒）

こちらは福岡市内の水道を管理する施設。

（17秒～21秒）

前半戦が終了し 試合がハーフタイムに

入ってまもなく

水圧の変化を知らせるアラートが鳴りました。

（21秒～30秒）

試合に集中していたファンの

トイレタイムとなるこの時間。

（30秒～35秒）

安定供給というゴールを目指し

司令塔のもとスリートップが水圧を調整。

（35秒～42秒）

その様子はワールドカップの熱戦さながら。

（42秒～46秒）

大雨による臨時休校で平日にもかかわらず

テレビ観戦が多かったこの日。

（46秒～53秒）

水のプロたちが負けられない戦いを制しました。

（53秒～58秒）